

平成28年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
協議会	宮古崎	0	60%	白化や食痕はみられず、健全なサンゴ群集が保たれている。
	宮古崎東	0	20%	礁縁部に直径30～40cmの群体が散見できる。白化や食痕は見られなかった。
	デン浜	0	60%	以前の食害により礁斜面下部は壊滅状態。浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。周辺では新規加入は少ない。被度は昨年度より増加。
	知名瀬大浜	0	50%	以前の食害により礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、周辺海域と比較し、新規加入のミドリイシ属が多く、小型群体が散見できる。多い所では1㎡あたり10群体以上の群体がみられる。
	大浜	0	20%	本調査時には食痕はみられなかった。新規加入のミドリイシ少ない。
	摺子崎	0	25%	以前の食害により礁斜面は全滅状態。礁縁はハナヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群体も多く見られる。被度は昨年度より増加。
	赤崎	0	10%	以前の白化現象により壊滅状態。新規加入が少なく回復が遅れていたが、今年度は卓状及び指状ミドリイシが散見できるようになった。
	名瀬湾立神	0	25%	以前の白化現象により卓状ミドリイシ群落は壊滅したが、小型群体が見られるようになってきた。白化による死滅はみられない。
	山羊島	0	20%	ハマサンゴ属が優占。大型のハマサンゴ群体が点在し、枝状のユビエダハマサンゴ群落広がるが、破損部分も多く見られる。
	キョンナ	0	40%	サンゴは急速に回復がみられ、直径20cm～40cmの卓状及び指状ミドリイシ属群体が散見できる。白化や食痕はみられない。
	有良	0	10%	以前に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。白化や食痕はみられない。
	芦花部	0	5%	以前に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。新規加入のサンゴは少ない。白化や食痕はみられない。
	摺古崎礁池	0	5%未満	塊状のハマサンゴの小型群体や塊状ハマサンゴが点在する。ミドリイシ属の新規加入はほとんどみられない。エダコモンサンゴの小型群体がごく少数みられた。白化はみられず。
	摺古崎礁原	0	20%	卓状ミドリイシ属が優占。以前、オニヒトデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。最近死滅したと思われる群体もみられた。食痕はみられない。
	大浜礁池	0	80%	被度80%だが、夏期高温による白化で90%が白化、うち10%が死滅。死亡群体の増加なく、多くの群体に回復傾向がみられる。
	大浜礁原	0	30%	オニヒトデによる食害があったが駆除等により全滅は免れ、卓状・指状のミドリイシ属が優占。
	崎原東	0	70%	卓状のクシハダミドリイシが優占。離礁上部は大型のクシハダミドリイシ群体に覆われている。樹枝上のヤシミドリイシ大型群体も少数みられる。白化や食痕はほぼみられず。
	崎原南	0	30%	チヂミウスコモンサンゴ部分白化群体が散見。回復傾向がみられる樹枝状のミドリイシ属と塊状ハマサンゴが優先する。種の多様性も高い。
	仲干瀬崎(小湊南)	0	70%	礁縁にハナヤサイサンゴ群集、礁斜面上部はミドリイシ属小型群体も増加し、順調に回復してきている。台風や白化、食痕による破損もみられなかった。
	笠利地区	赤木名	0	20%
前肥田		0	60%	エダハマサンゴ群落が湾奥の斜面上部に広がる。ミドリイシ属のサンゴはほぼみられない。
赤木名立神		0	20%	ハナヤサイサンゴ群体の殆どが白化。ミドリイシ類も軽度の白化群体が多い。2009年から小型群体が散見できるようになる。
蒲生崎入口		0	20%	以前の白化現象によりサンゴは壊滅。ソフトコーラル類が優占。ミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体も散見。種の多様性は高い。白化による死滅はみられない。
蒲生崎		0	25%	蒲生崎周辺でサンゴの小型群体が多い海域。指状ミドリイシ属の小型群体が散見。ミドリイシやコモンサンゴ類に白化群体がみられる。
佐仁		0	65%	笠利半島西海岸で回復が特に順調な海域。礁斜面では樹枝状のアオサンゴ小群落が点在。白化や食痕はみられない。被度は増加。
用海岸		0	65%	笠利半島東海岸で回復が特に良好な海域。ミドリイシ属の小型群体が多い。種の多様性も高い。白化や食痕はみられない。被度は増加。
あやまる岬		0	40%	礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形。礁縁に卓状ミドリイシがみられる。クシハダミドリイシ・ユビミドリイシが多い。白化や食痕はみられない。
節田		0	60%	礁縁から礁斜面にかけて、クシハダミドリイシ、ユビミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落広がる。新規加入のミドリイシ類も多い。一部群体で台風による破損みられる。
明神崎		0	50%	波当たりが強い礁縁にハナヤサイサンゴ類の群体が広がる。スケミドリイシ、ユビミドリイシなどの小型群体も散見できる。水路部には卓状ミドリイシ類もみられる。白化・や食痕なし。サンゴ群集は健全な状態。
用安		0	20%	直径20cmほどの指状ミドリイシ類の小型群体が多い。直径1mほどのクシハダミドリイシもみられる。新規加入のミドリイシ属のサンゴはやや少ない。白化、食痕はみられない。
神の子		0	50%	礁池内に広がる枝状ケエダコモンサンゴやチヂミウスコモンサンゴ群落の50%が白化。白化による死滅は確認できず。
住用地区	高浜東	0	70%	サンゴ群集は健全な状態で、礁縁上部に卓状ミドリイシの大型群体が広がる。
	高浜	0	50%	サンゴ群集は健全な状態で、礁縁部に直径40～60cmの指状及び卓状ミドリイシ群体が広がる。
	鳩ノ崎	0	10%	礁原上にハマサンゴ、キクメイシ類の小型群体が点在する。海底に点在する大型ハマサンゴ群体に部分白化がみられる。新規加入のサンゴは少ない。
	トビラ	0	10%	今年度も海底の泥土の堆積は見られなかったが、白化群体が散見。
	スタートビラ	0	20%	湾奥小滝からスタートビラに続く小規模なサンゴ礁。礁縁に卓状ミドリイシの群体がみられる。白化群体みられず、サンゴ群体は健全な状態。
	和瀬	0	20%	台風による破損もあり、白化個体が増え、大型の塊状ハマサンゴも部分白化し一部部分死滅。被度は40%から30%に減少。
	今里沖	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる程度で、新規加入のサンゴも少ない。白化群体もみられない。

平成28年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
大和村	今里小浜	0	5%	ハナヤサイサンゴ類が白化。ハナヤサイサンゴやコビミドリソンの小型群体が増加傾向。卓状ミドリソンの小型群体も少数確認されたが、新規加入は少ない。被度は微増。
	志戸勤コモリ	0	20%	浅所の3割白化。深所は白化みられず。礁原上にある直径50m、水深10mのすりばち状の窪み(コモリ)。小群落が点在している。周辺海域にあまりみられない種も存在。
	志戸勤礁池	0	30%	ミドリソンの30%が軽度白化。死滅部分はみられず。小型群体が多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。
	名首沖	0	60%	一部のハナヤサイサンゴが白化。ミドリソンの小型群体が散見でき、被度は増加。オニヒトデ駆除海域(保全海域)に選定すべきである。
	名首隧道	0	15%	サンゴは壊滅状態で直径10~15cm程度のミドリソンの小型群体がまばらにみられる。新規加入は少ない。被度は微増。
	ヒエン浜中央	0	10%	局地的に直径1m程度的大型群体がみられるが、新規加入のミドリソンは少ない。白化群体はみられない。
	ヒエン浜戸円側	0	20%	局地的にミドリソンの小型群体も散見できるが、加入数は少ない。白化群体はみられない。
	ヒエン浜礁地	0	5%未満	塊状ノウサンゴの上部に部分白化がみられる。塊状ハマサンゴが点在。新規加入のサンゴが少ない状態が続いている。
	大山崎西浜	0	10%	指状ミドリソンの属やハナヤサイサンゴ、卓状ミドリソンの属、キクメイシの小型群体がみられる。白化・食痕なく、新規加入は少ない。
	トルス	0	5%未満	小型のミドリソンの属やハナヤサイサンゴに白化みられる。指状ミドリソンの属の小型群体が1㎡あたり1~2群体程度みられる。新規加入数は少ない。
	マッコ	0	15%	一部のコモンサンゴ類が白化。指状ミドリソンの属の小型群体が散見。サンゴ群体は健全な状態。
	石川	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ハナヤサイサンゴや指状ミドリソンの属の小型群体がまばらにみられる程度。新規加入は少ない。
	親川	0	20%	小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる程度。リュウキュウノウサンゴ群落も広がる。白化みられず。被度は増加。
	宮古崎	0	40%	直径20~40cm程度の指状および卓状のミドリソンの属の小型群体が多い。被度は増加。
	国直北	0	70%	国直集落北側の北側の砂浜前面に広がるサンゴ礁。サンゴの成長に伴い、今後被度の増加が期待できる海域。
国直	0	70%	国直集落前面に広がるサンゴ礁。白化群体も少なく、今後被度の増加が期待できる海域。被度は増加。	
毛陣礁池	0	40%	ミドリソンの属が白化。死滅はみられず。卓状ミドリソンの属が優占。	
親川南	0	50%	ミドリソンの属やキクメイシ類に白化群体がみられた。サンゴの回復は進んでいる。被度は増加。	
宇検村	曾津高崎東	0	75%	大型群体も多く見られ、サンゴ幼生の供給源としても、周辺海域の回復を促す重要なサンゴ群集である。新規加入のミドリソンの属も多い。白化の発生はみられない。被度は増加。
	外浜	0	70%	礁縁では被度が高くなり、卓状ミドリソンの属の大型群体もみられる。水路部でも部分的に卓状ミドリソンの属が高被度でみられる。白化・食痕はみられない。被度は増加。
	屋鈍崎	0	40%	一部のハナヤサイサンゴ群体が白化。オニヒトデの大量発生によりサンゴが壊滅したが、礁面上部に群体が散見できる。被度は増加。
	屋鈍	0	20%	ハナヤサイサンゴ類やコモンサンゴ類が白化。オニヒトデの大量発生によりサンゴが壊滅したが、直径20cm~40cm程度のサンゴが散見できる。
	タエン崎	0	70%	コモンサンゴ類やキクメイシ類が白化、死滅体はみられず。オニヒトデの大量発生によりサンゴが壊滅したが、ミドリソンの属のサンゴ群体が散見できる。サンゴの成長に伴い、被度増加。
	タエン	0	60%	ハナヤサイサンゴ類やハナヤサイサンゴ類やコモンサンゴ類、アザミサンゴ類、イキンチャク類が白化。内湾性の環境で生息するサンゴの多様性も高い。ミドリソンの属も散見でき、キクメイシ属やハマサンゴ科群体も多くみられる。
	枝手久島北	0	70%	卓状ミドリソンの属が優占。大型群体も多くみられ、新規加入のミドリソンの属も多い。食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。
	倉木崎	0	40%	コリンボース状ミドリソンの属の小型群体が散見でき、コビミドリソンの属やオヤコビミドリソンの属が多い。白化や食痕もみられない。新規加入のサンゴは少ない。
	船越海岸	0	75%	大型卓状ミドリソンの属が優占。新規加入のミドリソンの属のサンゴも多い。食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。良好な環境が保たれている。被度は増加。
龍郷町	ウマズバマ	0	25%	食害等は確認できない。新たな稚サンゴはみられない。夏の高海水温のせいだ死サンゴが目につく。被度は30%から25%に減少。
	ハナゴイ	0	40%	ハラオハマサンゴ、ユフエダハマサンゴに白化や食害はみられず相変わらず健全。ミドリソンの属は相変わらず少ない。
	円	0	10%	ミドリソンの属は少し成長。高海水温で死んだサンゴもあるが大きな変化なし。ソフトコーラルは白化も無く健全。
	嘉渡	0	10%	円に沿うように10cm程度の小さなミドリソンの属があちこちにみられる。大きな変化なし。
	久場	0	20%	浅場のユフエダハマサンゴは死滅したまま。深場のエダセンベイサンゴも元気がない。被度は25%から20%に減少。
	今井崎	1	30%	成長中のサンゴもあるが大きな変化なし。
	赤尾木	1	15%	砂地に点在するハマサンゴは昨年度と同じく元気に生息。ミドリソンの属はほとんど死滅。被度は40%から15%に減少。
	倉崎	0	20%	オニヒトデの食害も見られない。夏の高海水温の影響で死サンゴが目立つ。被度は35%から20%に減少。
	白浦	0	15%	台風による波浪が原因か環境が大きく変化。枝サンゴはみられず、コブハマサンゴやテーブル状のミドリソンの属がみられる。
	戸ロアーチ	0	25%	食害はみられず、ハマサンゴやテーブルサンゴが目につく。成長しているかは不明。被度は30%から25%に減少。
	戸ロアウン	0	25%	ハマサンゴが目につく。ミドリソンの属も食害なし。死サンゴが増えたようだ。被度は30%から25%に減少。

協議会

## 平成28年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
	戸口落水	0	30%	残っているミドリシ類が大きく成長している感じ。大きな変化はみられない。
瀬戸内町	安脚場	0	30%	継続的オニヒトデ駆除を行っている海域。夏場、浅場で白化現象が見られた。稚サンゴの流入はさほど多くない。
	黒崎	0	10%	稚サンゴの流入は多少みられるが、全体的な被度上昇にはいたっておらず、回復が遅いイメージがある。
	実久	0	75%	所によっては100%のところもある。夏場の白化現象の影響もさほど無かった。回復が顕著な海域の一つである。
	デリキョンマ	0	35%	特に被度の変化は無い。大きなテーブルサンゴが残る貴重な海域である。
喜界町	池治	0	5%以上25%未満	オニヒトデによる食痕は見られず、白化現象も回復。
	塩道	0	25%以上50%未満	オニヒトデによる食痕は見られず、白化現象も回復。
	花良治	0	5%以上25%未満	オニヒトデによる食痕は見られず、白化現象も回復。
徳之島町	畦	9	60%	オニヒトデが活動的で食痕が多く見られた。水温の上昇による白化は無く、シコロ系・枝サンゴ共に発育良好。
	母間	10	80%	オニヒトデが活動的で食痕が見られた。サンゴの白化は見られなく成育良好。
天城町	松原漁港沖	0	15-25	サンゴ礁のヒトデによる被害はなかった。サンゴ礁の生息する環境が良くなつてきている。深場より、浅場にあるサンゴが成長が目立ち、元気な姿のサンゴが多かった。
	浅間沖	0	15-25	ミドリシサンゴの仲間やシコロサンゴ類が元気な姿を見せていた。海水温度が高くなりの白化現象があった。
伊仙町	喜念	2	60	若干白化現象が見られたが、食痕もなくサンゴは良好である。
	佐弁	2	60	オニヒトデのサイズは小型で、白化現象・食痕もなくサンゴの発育は良好である。
	面縄	4	60	白化現象等見られず、サンゴの状態は良好である。
和泊町	西原	0	25%未満	
	出花	0	25%未満	
	ワンジョ	0	25%未満	
	イダシチ	0	25%未満	
知名町	沖泊(北西)	0	5%	成長が見られ、傷面も小さくなってきているが、隣接の被覆状のサンゴの多くは白化が目立った。
	ウジジ浜沖	0	25%	昨年からあまり状況は変わらない。
	屋子母	0	5%	漁礁が設置されていてその先端に着床成長しているサンゴが多くなってきている。
与論町	茶花沖(宮殿東)	0	45%	良好 サンゴの回復が見られる
	茶花沖(ニュードロップ)	0	60%	極めて良好 年々回復している
	長崎沖	0	40%	良好 サンゴの回復が見られる
	皆田沖(磯地内)	0	5%	不良 あまりサンゴの塊を見る事が出来ない。
	赤崎沖	0	35%	良好 サンゴの回復が見られる
	赤崎沖(磯地内)	0	40%	良好 サンゴの回復が見られる
合計				